

安全データシート

(表紙)

化学物質及び会社情報

製品名	ポナールキット-D0 補充薬品 (A, B, C)
製品コード (整理番号)	PK11-50
会社名	株式会社同仁化学研究所
住所	熊本県上益城郡益城町田原2025-5
担当部門	品質保証部
電話番号	096-286-1515
Fax番号	096-286-1525
E-メールアドレス	info@dojindo.co.jp

本製品は下記の製品より構成されるキットである。
それぞれの構成製品の製品安全データシートを作成し、それを合わせたものを本製品の製品安全データシートとする。

構成製品名

ポナールキット-D0 補充薬品 (A錠)

ポナールキット-D0 補充薬品 (B錠)

ポナールキット-D0 補充薬品 (C錠)

作成日 1996/11/27
改訂日 2019/09/26

安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名 ポナールキット-D0 補充薬品(A錠)
製品コード(整理番号) PK11-50
会社名 株式会社 同仁化学研究所
住所 熊本県上益城郡益城町田原2025-5
担当部門 品質保証部
電話番号: 096-286-1515
Fax番号: 096-286-1525
E-mail: info@dojindo.co.jp

2. 危険有害性の要約

【GHS分類】 分類できない

物理化学的危険性

分類できない

健康有害性

急性毒性(経口): 分類できない
急性毒性(経皮): 分類できない
急性毒性(吸入): 分類できない
皮膚腐食性/刺激性: 分類できない
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性: 分類できない
呼吸器感作性: 分類できない
皮膚感作性: 分類できない
生殖細胞変異原性: 分類できない
発がん性: 分類できない
生殖毒性: 分類できない
標的臓器/全身毒性(単回暴露): 分類できない
標的臓器/全身毒性(反復暴露): 分類できない
吸引性呼吸器有害性: 分類できない

環境有害性

水生環境急性有害性: 分類できない
水生環境慢性有害性: 分類できない

【GHSで扱われない他の危険有害性情報】

最重要危険有害性

有害性: 通常の実用では、有害性は低いと予想される。
環境影響: 環境にとって有害性は低いと考えられる。
物理的及び化学的危険性: 通常の実用では、火災の危険性は極めて低い。
特定の危険有害性: データなし
分類の名称(分類基準は日本方式): 分類基準に該当しない。

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別: 混合物
化学名: ポナールキット-D0 補充薬品(A錠)
別名: PONALKIT-D0 supplement(A)
成分及び含有量: シリカゲル(1.9%)
その他成分非公開(規制物質含まず)
化学特性(化学式): SiO₂(シリカゲル)
CAS No: 112925-00-8(シリカゲル)
官報公示整理番号(化審法・安衛法): 記載なし
危険有害成分: シリカゲル

4. 応急措置

吸入した場合：

- ・被災者を空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- ・呼吸が困難な場合には、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- ・気分が悪い時は、医師の診断／手当てを受けること。

皮膚に付着した場合：

- ・多量の水と石鹸で洗うこと。
- ・皮膚刺激または発疹が生じた場合は、医師の診断／手当てを受けること。
- ・汚染された衣類を再使用する場合には洗濯／汚染の除去をすること。

目に入った場合：

- ・水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- ・眼の刺激が続く場合は、医師の診断／手当てを受けること。

飲み込んだ場合：

- ・気分が悪い時は、医師に連絡すること。口をすすぐこと。

応急措置をする者の保護：

- ・救助者が有害物質に触れないよう手袋やゴーグルなどの保護具を着用する。

5. 火災時の措置

消火剤：

水噴霧、耐アルコール泡、粉末、二酸化炭素

使ってはならない消火剤：

-

火災時の特定危険有害性：

窒素酸化物、硫黄酸化物を発生する。

消火方法：

- ・消火作業は可能な限り風上から行なう。
- ・移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。
- ・火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。
- ・火元の燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用して消火する。
- ・消火による放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないように適切な処置をする。
- ・初期消火には水を用いる。
- ・大規模火災の場合は、噴霧で一挙に消火する。
- ・容器周辺が火災の時は、容器を安全な場所に移動する。
- ・容器が移動できないときは、容器に水を注水して冷却する。
- ・火災時、温度上昇などにより爆発する恐れがあるので、消火に当たっては十分な距離をとる。

消火を行う者の保護（保護具等）： 呼吸用保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項：

- ・作業の際は必ず保護具を着用して、製品が身体に付着しないようにする。
- ・風上から作業し、風下の人を待避させる。
- ・付近の着火源になるものを速やかに取り除く。
- ・漏出した場所の周囲にロープを張るなどして関係者以外の立入りを禁止する。

環境に対する注意事項：

- ・流出した製品が河川等に排出され、環境に影響を起こさないように注意する。

除去方法（回収、中和、廃棄など）：

- ・少量の場合、漏洩物は清潔な帯電防止工具を用いて集め、清潔な乾燥した容器に入れゆるく覆いをし、後で廃棄処理する。
- ・大量の場合、漏洩物を回収した後、漏洩区域を大量の水で洗い流す。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策：

- ・作業者は暴露防止のため取扱いは換気の良い場所で行なう。
- ・作業場近くに緊急時に洗眼及び身体洗浄を行なうための設備を設置する。
- ・発散した製品を吸い込まないように、風上から作業する。
- ・作業の都度、容器を密閉する。

注意事項：

- ・密閉された装置、機器、又は局所排気装置を使用する。
- ・取扱いは換気の良い場所で行なう。
- ・屋外での取扱いはできるだけ風上から作業する。

安全取扱い注意事項：

- ・容器は転倒させる、衝撃を加える、又は引きずる等の粗暴な扱いをしない。

保管

適切な保管条件：

- ・密封容器に入れ冷暗所に保管する。
- ・開栓した容器で再び保管する時は、密栓をよく確かめる。
- ・長期間の保管を避ける。

避けるべき保管条件：

加熱、燃焼、日光

安全な容器包装材料：

- ・堅牢で不活性な材質の容器を用いる。

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策： 取扱いについては局所排気内、または全体換気の設備のある場所で行う。

管理濃度： 設定されていない。

許容濃度

日本産業衛生学会（2009年度版）： 記載なし

ACGIH（2006年度版）： 記載なし

保護具

呼吸器用の保護具： 防塵マスク

手の保護具： 保護手袋

目の保護具： 保護眼鏡、ゴーグル等

皮膚及び身体の保護具： 保護服（長袖作業衣）

9. 物理的及び化学的性質

外観（色／形状）： 白色錠剤 固体

臭い： なし

pH： データなし

融点： データなし

沸点： データなし

引火点： データなし

爆発範囲： データなし

蒸気圧： データなし

蒸気密度： データなし

比重： データなし

溶解性： 水に溶解する

オクタノール/水分配係数： データなし

自然発火温度： データなし

分解温度： データなし

その他のデータ： データなし

10. 安定性及び反応性

安定性： 適切な取扱い条件下では安定。

反応性： 情報なし。

避けるべき条件： 湿気

避けるべき材料： 強酸化剤

危険有害な分解生成物（一酸化炭素、二酸化炭素、水以外）： 窒素酸化物、硫黄酸化物

11. 有害性情報

急性毒性（経口）： 分類できない

急性毒性（経皮）： 分類できない

急性毒性（吸入）： 分類できない

皮膚腐食性／刺激性：	分類できない
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性：	分類できない
呼吸器感作性：	分類できない
皮膚感作性：	分類できない
生殖細胞変異原性：	分類できない
発がん性：	分類できない
生殖毒性：	分類できない
標的臓器／全身毒性（単回暴露）：	分類できない
標的臓器／全身毒性（反復暴露）：	分類できない
吸引性呼吸器有害性：	分類できない

1 2. 環境影響情報

生態毒性：	データなし
残留性／分解性：	データなし
生物蓄積性：	データなし
土壌中の移動性：	データなし

1 3. 廃棄上の注意

化学物質（残余廃棄物）：
廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。
汚染容器・包装：
関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。空容器の廃棄をする場合は、内容物を完全に除去すること。

1 4. 輸送上の注意

国際規制　なし
国連分類：なし
国連番号：なし
指針番号：なし
容器等級：情報なし
国内規制：なし
輸送の特定の安全対策及び条件：
・輸送前に容器の破損、腐蝕、漏れのないことを確かめる。転倒、落下、損傷のないように積み込み、荷崩れ防止を確実にこなう。

1 5. 適用法令

化学物質管理促進法：	非該当
労働安全衛生法：	施行令 第18条 名称等を表示すべき危険物及び有害物質（シリカゲル）、第18条の2 名称等を通知すべき有害物（シリカゲル）
毒物及び劇物取締法：	非該当
消防法：	非該当
化審法：	非該当
航空法：	非該当
船舶安全法：	非該当
水質汚濁防止法：	非該当

1 6. その他の情報（引用文献等）

- 1) 国際化学物質安全性カード（ICSC）日本語版データベース（国立医薬品食品衛生研究所）
- 2) 安全衛生情報センター（中央労働災害防止協会）
- 3) 緊急時応急措置指針（2006年度版）（日本化学工業協会）
- 4) 15710の化学商品（2010年版）（化学工業日報）
- 5) 日本産業衛生学会誌51巻（2009年度版）
- 6) 2006 TLVs and BEIs（ACGIH）
- 7) 化学物質情報管理センターデータベース 化学物質総合情報提供システム（CHRIP）

nite (独) 製品評価技術基盤機構

8) 神奈川県化学物質安全情報提供システム(kis-net)

9) Chemical toxicity Data(SIRI MSDS Index)

- ・全ての資料や文献を調査したわけではないため情報漏れがあるかもしれません。
- ・また新しい知見の発表や従来の説の訂正により内容に変更が生じます。
- ・重要な決定等にご利用される場合は、出典等をよく考慮されるか、試験によって確かめられることをお勧めします。
- ・なお、含有量、物理化学的性質等の数値は保証値ではありません。
- ・また、注意事項は、通常の取扱いを対象としたものなので、特殊な取扱いの場合には、この点にご配慮をお願いします。

A

成分：	FES	シリカゲル	その他	混合物
含有量(%)：	95	1.9	3.1	
化学式：	$\text{NH}_2(\text{CH}_2)_2\text{NH}_2 \cdot \text{FeSO}_4$	SiO_2		
CAS No.：	34962-29-3	112925-00-8		
官報公示整理番号(化審法・安衛法)：	なし	なし		
酸化性固体：	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない
急性毒性(経口)：	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない
急性毒性(経皮)：	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない
急性毒性(吸入)：	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない
皮膚腐食性・刺激性：	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性：	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない
呼吸器感作性と皮膚感作性：	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない
生殖細胞変異原性：	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない
発がん性：	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない
生殖毒性：	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない
特定標的臓器・全身毒性(単回暴露)：	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない
特定標的臓器・全身毒性(反復暴露)：	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない
吸引性呼吸器有害性：	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない
水生環境急性有害性：	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない
水生環境慢性有害性：	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない

作成日 1996年11月27日
改訂日 2019年09月26日

安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名 ポナールキット-D0 補充薬品(B錠)
製品コード(整理番号) PK11-50
会社名 株式会社 同仁化学研究所
住所 熊本県上益城郡益城町田原2025-5
担当部門 品質保証部
電話番号: 096-286-1515
Fax番号: 096-286-1525
E-mail: info@dojindo.co.jp

2. 危険有害性の要約

【GHS分類】	該当
物理化学的危険性	
酸化性固体	区分3
健康有害性	
急性毒性(経口):	区分5
急性毒性(経皮):	分類できない
急性毒性(吸入):	分類対象外
皮膚腐食性/刺激性:	区分2
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性:	区分2A-2B
呼吸器感作性:	分類できない
皮膚感作性:	分類できない
生殖細胞変異原性:	分類できない
発がん性:	分類できない
生殖毒性:	区分2
標的臓器/全身毒性(単回暴露):	区分2(血液)、区分3(気道刺激性)
標的臓器/全身毒性(反復暴露):	区分2(血液)
吸引性呼吸器有害性:	分類できない
環境有害性	
水生環境急性有害性:	分類できない
水生環境慢性有害性:	分類できない

【GHSラベル要素】

シンボル: 感嘆符, 健康有害性, 円上の炎

注意喚起用語: 危険

危険有害性情報:

火災促進のおそれ; 酸化性, 飲み込むと有害のおそれ, 皮膚刺激, 強い眼刺激, 生殖能力または胎児への悪影響のおそれの疑い, 臓器の障害のおそれ(血液), 呼吸器への刺激のおそれ(気道刺激性), 長期または反復暴露による臓器の障害おそれ(血液)

注意書き:

- 【予防策】
- ・使用前に取扱説明書等を入手すること。
 - ・すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
 - ・熱から遠ざけること。
 - ・可燃物, その他の禁忌物質と混合を回避するために予防策をとること。
 - ・粉じん/ヒューム/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
 - ・屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
 - ・この製品を使用する時に, 飲食又は喫煙をしないこと
 - ・取扱い後はよく手を洗うこと。
 - ・保護手袋および保護眼鏡/保護面を着用すること。

- 【対応】
- ・眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
 - ・眼の刺激が続く場合は、医師の診断/手当てを受けること。
 - ・皮膚に付いた場合：多量の水と石鹸で洗うこと。
 - ・取り扱った後、手を洗うこと。
 - ・皮膚刺激が生じた場合、医師の診断/手当てを受けること。
 - ・汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。
 - ・曝露または曝露の懸念がある場合は、医師の診断/手当てを受けること。
 - ・気分が悪い時は、医師の診断/手当てを受けること。
- 【保管】
- ・可燃物/その他の禁忌物質から離して保管すること。
 - ・容器を密閉して、涼しい所/換気の良いところで保管すること。
 - ・施錠して保管すること。
- 【廃棄】
- ・内容物/容器は国/都道府県/市町村の関係法令、規則に従って適正に廃棄すること。

【GHSで扱われない他の危険有害性情報】

最重要危険有害性

- 有害性： 皮膚などに付着すると人によっては炎症をおこす可能性がある。
- 環境影響： 環境への影響は少ないと考えられる。
- 物理的及び化学的危険性： 可燃物との混在により、燃焼または爆発を起こす。
- 特定の危険有害性： 情報なし
- 分類の名称（分類基準は日本方式）： 酸化性物質
その他の有害性物質

3. 組成、成分情報

- 単一製品・混合物の区別： 混合物
- 化学名または一般名： ポナールキット-D0-補充薬品 (B錠)
- 別名： PONALKIT-D0 補充薬品 (B)
- 成分及び含有量： 硝酸カリウム(32%)
シリカゲル(2.5%)
その他は成分非公開（規制物質含まず）
- 化学特性（化学式）： KN_3 、 SiO_2
- CAS No： 7757-79-1（硝酸カリウム）
112925-00-8（シリカゲル）
- 官報公示整理番号（化審法・安衛法）： (1)-449（硝酸カリウム）
- 危険有害成分： 硝酸カリウム、シリカゲル

4. 応急措置

- 吸入した場合：
- ・被災者を空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
 - ・呼吸が困難な場合には、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
 - ・気分が悪い時は、医師の診断/手当てを受けること。
- 皮膚に付着した場合：
- ・多量の水と石鹸で洗うこと。
 - ・皮膚刺激または発疹が生じた場合は、医師の診断/手当てを受けること。
 - ・汚染された衣類を再使用する場合には洗濯/汚染の除去をすること。
- 目に入った場合：
- ・水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
 - ・眼の刺激が続く場合は、医師の診断/手当てを受けること。
- 飲み込んだ場合：
- ・気分が悪い時は、医師に連絡すること。口をすすぐこと。
- 応急措置をする者の保護：
- ・救助者が有害物質に触れないよう手袋やゴーグルなどの保護具を着用する。

5. 火災時の措置

- 消火剤： 水噴霧、耐アルコール泡、二酸化炭素

使ってはならない消火剤： 粉末消火剤、泡消火薬剤(硝酸カリウム)
火災時の特定危険有害性： 燃焼により、有害な窒素酸化物、硫黄酸化物等を発生する。
消火方法：

- ・消火作業は可能な限り風上から行なう。
- ・摩擦、熱及び不純物の混入により爆発するおそれがある。
- ・移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。
- ・火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。
- ・火元の燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用して消火する。
- ・消火による放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないように適切な処置をする。
- ・初期消火には水を用いる。
- ・大規模火災の場合は、噴霧で一挙に消火する。
- ・容器が熱にさらされているときは、移さない。
- ・容器周辺が火災の時は、容器を安全な場所に移動する。
- ・容器が移動できないときは、容器に水を注水して冷却する。
- ・可能な限り遠くから、無人ホース保護具やモニター付きノズルを用いて消火する。
- ・消火が不可能な場合には、その場所から避難し、燃焼させておく。
- ・火災時、温度上昇などにより爆発する恐れがあるので、消火に当たっては十分な距離をとる。

消火を行う者の保護(保護具等)： 呼吸用保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項：

- ・作業の際は必ず保護具を着用して、製品が身体に付着しないようにする。
- ・風上から作業し、風下の人を待避させる。
- ・付近の着火源になるものを速やかに取り除く。
- ・漏出した場所の周囲にロープを張るなどして関係者以外の立入を禁止する。
- ・密閉された場所に立ち入る前に換気する。
- ・適切な防護衣を着けていないときは破損した容器あるいは漏洩物に触れてはいけない。

環境に対する注意事項：

- ・流出した製品が河川等に排出され、環境に影響を起ささないように注意する。
- ・大量の水で希釈する場合は、汚染された排水が適切に処理されずに環境に流出しないように注意する。

除去方法(回収、中和、廃棄など)：

- ・少量の場合、漏洩物は清潔な帯電防止工具を用いて集め、清潔な乾燥した容器に入れゆるく覆いをし、後で廃棄処理する。
- ・大量の場合、漏洩物を回収した後、漏洩区域を大量の水で洗い流す。

二次災害の防止策：

- ・完全に回収後、汚染された場所及びその周辺を大量の水で洗浄する。
- ・付着物、回収物等は関係法規に基づき速やかに処分する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策：

- ・作業者は暴露防止のため取扱いは換気の良い場所で行なう。
- ・作業場近くに緊急時に洗眼及び身体洗浄を行なうための設備を設置する。
- ・発散した製品を吸い込まないように、風上から作業する。
- ・作業の都度、容器を密閉する。

注意事項：

- ・使用前に取り扱い説明書を入手すること。
- ・すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- ・周辺での高温物の使用を禁止する。
- ・可燃性物質から離して使用すること。
- ・接触、吸入又は飲み込まないこと。
- ・皮膚との接触を避けること。
- ・眼に入れないこと。
- ・粉塵、ヒュームを吸入しないこと。
- ・取り扱い後はよく手を洗うこと。

- ・密閉された装置、機器、又は局所排気装置を使用する。
- ・取扱いは換気の良い場所で行なう。
- ・屋外での取扱いはできるだけ風上から作業する。

安全取扱い注意事項：

- ・容器は転倒させる、衝撃を加える、又は引きずる等の粗暴な扱いをしない。

保管

適切な保管条件：

- ・密封容器に入れ冷暗所に保管する。
- ・開栓した容器で再び保管する時は、密栓をよく確かめる。
- ・長期間の保管を避ける。

避けるべき保管条件：

- ・可燃性物質を近くに置かない。

安全な容器包装材料：

- ・堅牢で不活性な材質の容器を用いる。
- ・耐火性の容器を使用する。

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策： 密閉する装置、又は局所排気装置を使用する。
取扱い場所の近くに洗身シャワー、手洗い、洗眼設備を設け、その位置を明確に表示する。

管理濃度： 設定されていない。

許容濃度

日本産業衛生学会（2009年度版）：記載なし

ACGIH（2006年度版）：記載なし

保護具

呼吸器用の保護具： 防塵マスク

手の保護具： 保護手袋

目の保護具： 保護眼鏡、ゴーグル等

皮膚及び身体の保護具： 保護服（長袖作業衣）状況に応じ、ゴム長靴、前掛け、フェイスシールド等

9. 物理的及び化学的性質

外観（色／形状）： 白色錠剤 固体

臭い： なし

pH： データなし

融点： 333-334℃(硝酸カリウム)

沸点： データなし

引火点： データなし

爆発範囲： データなし

蒸気圧： データなし

蒸気密度： データなし

比重： 2.109(硝酸カリウム)

溶解性： 水に溶解する。

オクタノール/水分配係数： データなし

自然発火温度： データなし

分解温度： 400℃(硝酸カリウム)

10. 安定性及び反応性

安定性： 適切な保管条件下では安定である。

反応性： 着火源により燃焼する可能性がある。

避けるべき条件： 湿気

避けるべき材料： 可燃性物質および還元性物質

危険有害な分解生成物（一酸化炭素、二酸化炭素、水以外）： 窒素酸化物、硫黄酸化物

11. 有害性情報

急性毒性（経口）： 経口 マウス LD50 3,750mg/kg 4) (硝酸カリウム)

急性毒性（経皮）：	データなし
急性毒性（吸入）：	ラットLC50(4時間暴露) 0.375mg/kg (SIDS)
皮膚腐食性／刺激性：	(硝酸カリウム) ICSCより。
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性：	(硝酸カリウム) ICSCより。
呼吸器感作性：	データなし
皮膚感作性：	データなし
生殖細胞変異原性：	データなし
発がん性：	データなし
生殖毒性：	(硝酸カリウム) 生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い
標的臓器／全身毒性（単回暴露）：	(硝酸カリウム) 血液の障害のおそれ：区分2（血液）、呼吸器への刺激のおそれ：区分3（気道刺激性）
標的臓器／全身毒性（反復暴露）：	(硝酸カリウム) 長期又は反復ばく露による血液の障害のおそれ
吸引性呼吸器有害性：	データなし

1 2. 環境影響情報

生態毒性：	データなし
残留性／分解性：	データなし
生物蓄積性：	データなし
土壌中の移動性：	データなし

1 3. 廃棄上の注意

- 化学物質（残余廃棄物）：
 廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。
- 廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。
 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。
- 汚染容器・包装：
 容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。空容器の廃棄をする場合は、内容物を完全に除去すること。

1 4. 輸送上の注意

- 国際規制
- 国連分類：クラス5.1（硝酸カリウム）
 国連番号：UN1486（硝酸カリウム）
 指針番号：なし
 容器等級：PGIII
- 国内規制：消防法
- 輸送の特定の安全対策及び条件：
- 輸送前に容器の破損、腐蝕、漏れのないことを確かめる。転倒、落下、損傷のないように積み込み、荷崩れ防止を確実にこなう。
 - 該当法規に従い、包装、表示、輸送を行なう。

1 5. 適用法令

化学物質管理促進法：	非該当
労働安全衛生法：	施行令 別表第1第3号 危険物（酸化性の物）（硝酸カリウム） 施行令 第18条 名称等を表示すべき危険物及び有害物質（シリカゲル）、第18条の2 名称等を通知すべき有害物（シリカゲル）
毒物及び劇物取締法：	非該当
消防法：	危険物第1類 硝酸塩類第1種酸化性固体（硝酸カリウム）
化審法：	非該当
航空法：	施行規則第194条危険物酸化性物質（硝酸カリウム）
船舶安全法：	危規則第2条危険物等級5.1酸化性物質（硝酸カリウム）

1 6. その他の情報（引用文献等）

- 1) 国際化学物質安全性カード (I C S C) 日本語版データベース (国立医薬品食品衛生研究所)
- 2) 安全衛生情報センター (中央労働災害防止協会)
- 3) 緊急時応急措置指針 (2006年度版) (日本化学工業協会)
- 4) 15710の化学商品 (2010年版) (化学工業日報)
- 5) 日本産業衛生学会誌51巻 (2009年度版)
- 6) 2006 TLVs and BEIs (ACGIH)
- 7) 化学物質情報管理センターデータベース 化学物質総合情報提供システム (CHRIP)
nite (独) 製品評価技術基盤機構
- 8) 神奈川県化学物質安全情報提供システム(kis-net)
- 9) Chemical toxicity Data(SIRI MSDS Index)

- ・全ての資料や文献を調査したわけではないため情報漏れがあるかもしれません。
- ・また新しい知見の発表や従来の説の訂正により内容に変更が生じます。
- ・重要な決定等にご利用される場合は、出典等をよく考慮されるか、試験によって確かめられることをお勧めします。
- ・なお、含有量、物理化学的性質等の数値は保証値ではありません。
- ・また、注意事項は、通常的な取扱いを対象としたものなので、特殊な取扱いの場合には、この点にご配慮をお願いします。

B錠				
成分：	硝酸カリウム	シリカゲル	成分非公開	混合物
含有量(%)：	32	2.5	65.5	-
化学式：	KNO ₃	SiO ₂	-	-
CAS No.：	7757-79-1	112925-00-8	-	-
官報公示整理番号(化審法・安衛法)：	(1)-449	なし	-	-
酸化性固体：	区分3	分類できない	分類できない	区分3
急性毒性(経口)：	区分5	分類できない	分類できない	区分5
急性毒性(経皮)：	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない
急性毒性(吸入)：	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない
皮膚腐食性・刺激性：	区分2	分類できない	分類できない	区分2
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性：	区分2A-2B	分類できない	分類できない	区分2A-2B
呼吸器感受性と皮膚感受性：	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない
生殖細胞変異原性：	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない
発がん性：	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない
生殖毒性：	区分2	分類できない	分類できない	区分2
特定標的臓器・全身毒性(単回暴露)：	区分2(血液)、 区分3(気道刺激性)	分類できない	分類できない	区分2(血液)、 区分3(気道刺激性)
特定標的臓器・全身毒性(反復暴露)：	区分2(血液)	分類できない	分類できない	区分2(血液)
吸引性呼吸器有害性：	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない
水生環境急性有害性：	区分外	分類できない	分類できない	分類できない
水生環境慢性有害性：	区分外	分類できない	分類できない	分類できない

作成日 1996/11/27
改訂日 2019/09/26

安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名 ポナールキット-D0補充薬品 (C錠)
製品コード (整理番号) PK11-50
会社名 株式会社 同仁化学研究所
住所 熊本県上益城郡益城町田原2025-5
担当部門 品質保証部
電話番号 : 096-286-1515
Fax番号 : 096-286-1525
E-mail : info@dojindo.co.jp

2. 危険有害性の要約

【GHS分類】 分類できない

物理化学的危険性

分類できない

健康有害性

急性毒性 (経口) : 分類できない
急性毒性 (経皮) : 分類できない
急性毒性 (吸入) : 分類できない
皮膚腐食性/刺激性 : 分類できない
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 分類できない
呼吸器感作性 : 分類できない
皮膚感作性 : 分類できない
生殖細胞変異原性 : 分類できない
発がん性 : 分類できない
生殖毒性 : 分類できない
標的臓器/全身毒性 (単回暴露) : 分類できない
標的臓器/全身毒性 (反復暴露) : 分類できない
吸引性呼吸器有害性 : 分類できない

環境有害性

水生環境急性有害性 : 分類できない
水生環境慢性有害性 : 分類できない

【GHSで扱われない他の危険有害性情報】

最重要危険有害性

有害性 : 有害性は極めて低いと考えられる。
環境影響 : 環境にとって有害性は低いと考えられる。
物理的及び化学的危険性 : 通常取扱では、火災の危険性は極めて低い。
特定の危険有害性 : データなし
分類の名称 (分類基準は日本方式) : 分類基準に該当しない。

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別 : 混合物
化学名 : ポナールキット-D0補充薬品 (C錠)
PONALKIT-D0 supllment (C)
成分及び含有量 : 成分非公開 (規制物質含まず)
化学特性 (化学式) : -
CAS No : -
官報公示整理番号 (化審法・安衛法) : -
危険有害成分 : 該当なし

4. 応急措置

吸入した場合 :

- ・被災者を空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- ・呼吸が困難な場合には、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- ・気分が悪い時は、医師の診断／手当てを受けること。

皮膚に付着した場合：

- ・多量の水と石鹸で洗うこと。
- ・皮膚刺激または発疹が生じた場合は、医師の診断／手当てを受けること。
- ・汚染された衣類を再使用する場合には洗濯／汚染の除去をすること。

目に入った場合：

- ・水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- ・眼の刺激が続く場合は、医師の診断／手当てを受けること。

飲み込んだ場合：

- ・気分が悪い時は、医師に連絡すること。口をすすぐこと。

応急措置をする者の保護：

- ・救助者が有害物質に触れないよう手袋やゴーグルなどの保護具を着用する。

5. 火災時の措置

消火剤： 水噴霧、耐アルコール泡、粉末、二酸化炭素

消火方法：

- ・消火作業は可能な限り風上から行なう。
- ・移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。
- ・火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。
- ・火元の燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用して消火する。
- ・消火による放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないように適切な処置をする。
- ・初期消火には水を用いる。
- ・大規模火災の場合は、噴霧で一挙に消火する。
- ・容器周辺が火災の時は、容器を安全な場所に移動する。
- ・容器が移動できないときは、容器に水を注水して冷却する。
- ・火災時、温度上昇などにより爆発する恐れがあるので、消火に当たっては十分な距離をとる。

消火を行う者の保護（保護具等）： 呼吸用保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項：

- ・作業の際は必ず保護具を着用して、製品が身体に付着しないようにする。
- ・風上から作業し、風下の人を待避させる。
- ・付近の着火源になるものを速やかに取り除く。
- ・漏出した場所の周囲にロープを張るなどして関係者以外の立入を禁止する。

環境に対する注意事項：

- ・流出した製品が河川等に排出され、環境に影響を起ささないように注意する。

除去方法（回収、中和、廃棄など）：

- ・少量の場合、漏洩物は清潔な帯電防止工具を用いて集め、清潔な乾燥した容器に入れゆるく覆いをし、後で廃棄処理する。
- ・大量の場合、漏洩物を回収した後、漏洩区域を大量の水で洗い流す。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策：

- ・作業者は暴露防止のため取扱いは換気の良い場所で行なう。
- ・作業場近くに緊急時に洗眼及び身体洗浄を行なうための設備を設置する。
- ・発散した製品を吸い込まないように、風上から作業する。
- ・作業の都度、容器を密閉する。

注意事項：

- ・密閉された装置、機器、又は局所排気装置を使用する。
- ・取扱いは換気の良い場所で行なう。
- ・屋外での取扱いはできるだけ風上から作業する。

安全取扱い注意事項：

- ・容器は転倒させる、衝撃を加える、又は引きずる等の粗暴な扱いをしない。

保管

適切な保管条件：

- ・密封容器に入れ冷暗所に保管する。
- ・開栓した容器で再び保管する時は、密栓をよく確かめる。
- ・長期間の保管を避ける。

避けるべき保管条件：

加熱、燃焼、日光

安全な容器包装材料：

- ・堅牢で不活性な材質の容器を用いる。

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策： 取扱については局所排気内、または全体換気の設備のある場所で行う。

管理濃度： 設定されていない。

許容濃度

日本産業衛生学会（2008年度版）：記載なし

ACGIH（2006年度版）：記載なし

保護具

呼吸器用の保護具： 防塵マスク

手の保護具： 保護手袋

目の保護具： 保護眼鏡、ゴーグル等

皮膚及び身体の保護具： 保護服（長袖作業衣）

9. 物理的及び化学的性質

外観（色／形状）： 白色錠剤 固体

臭い： なし

pH： データなし

融点： データなし

沸点： データなし

引火点： データなし

爆発範囲： データなし

蒸気圧： データなし

蒸気密度： データなし

比重： データなし

溶解性： 水に溶解する

オクタノール/水分配係数： データなし

自然発火温度： データなし

分解温度： データなし

その他のデータ： データなし

10. 安定性及び反応性

安定性： 適切な取扱い条件下では安定

反応性： 情報なし

避けるべき条件： 湿気

避けるべき材料： 強酸化剤

危険有害な分解生成物（一酸化炭素、二酸化炭素、水以外）： 情報なし

11. 有害性情報

急性毒性（経口）： 分類できない

急性毒性（経皮）： 分類できない

急性毒性（吸入）： 分類できない

皮膚腐食性／刺激性： 分類できない

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性： 分類できない

呼吸器感作性： 分類できない

皮膚感作性： 分類できない

生殖細胞変異原性：	分類できない
発がん性：	分類できない
生殖毒性：	分類できない
標的臓器／全身毒性（単回暴露）：	分類できない
標的臓器／全身毒性（反復暴露）：	分類できない
吸引性呼吸器有害性：	分類できない

1 2. 環境影響情報

生態毒性：	データなし
残留性／分解性：	データなし
生物蓄積性：	データなし
土壤中の移動性：	データなし

1 3. 廃棄上の注意

化学物質（残余廃棄物）：
廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。
汚染容器・包装：
関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。空容器の廃棄をする場合は、内容を完全に除去すること。

1 4. 輸送上の注意

国際規制	なし
国連分類：	なし
国連番号：	なし
指針番号：	なし
容器等級：	情報なし
国内規制：	なし

輸送の特定の安全対策及び条件：
・輸送前に容器の破損、腐蝕、漏れのないことを確かめる。転倒、落下、損傷のないように積み込み、荷崩れ防止を確実にこなう。

1 5. 適用法令

化学物質管理促進法：	非該当
労働安全衛生法：	非該当
毒物及び劇物取締法：	非該当
消防法：	非該当
化審法：	非該当
航空法：	非該当
船舶安全法：	非該当
水質汚濁防止法：	非該当

1 6. その他の情報（引用文献等）

- 1) 国際化学物質安全性カード（ICSC）日本語版データベース（国立医薬品食品衛生研究所）
- 2) 安全衛生情報センター（中央労働災害防止協会）
- 3) 緊急時応急措置指針（2006年度版）（日本化学工業協会）
- 4) 15710の化学商品（2010年版）（化学工業日報）
- 5) 日本産業衛生学会誌51巻（2009年度版）
- 6) 2006 TLVs and BEIs (ACGIH)
- 7) 化学物質情報管理センターデータベース 化学物質総合情報提供システム（CHRIP）
nite（独）製品評価技術基盤機構
- 8) 神奈川県化学物質安全情報提供システム(kis-net)
- 9) Chemical toxicity Data(SIRI MSDS Index)

- ・全ての資料や文献を調査したわけではないため情報漏れがあるかもしれません。
- ・また新しい知見の発表や従来の説の訂正により内容に変更が生じます。
- ・重要な決定等にご利用される場合は、出典等をよく考慮されるか、試験によって確かめられることをお勧めします。

C

成分：	成分非公開	混合物
含有量(%)：	-	-
化学式：	-	-
CAS No.：	-	-
官報公示整理番号(化審法・安衛法)：	-	-
酸化性固体：	分類できない	分類できない
急性毒性(経口)：	分類できない	分類できない
急性毒性(経皮)：	分類できない	分類できない
急性毒性(吸入)：	分類できない	分類できない
皮膚腐食性・刺激性：	分類できない	分類できない
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性：	分類できない	分類できない
呼吸器感作性と皮膚感作性：	分類できない	分類できない
生殖細胞変異原性：	分類できない	分類できない
発がん性：	分類できない	分類できない
生殖毒性：	分類できない	分類できない
特定標的臓器・全身毒性(単回暴露)：	分類できない	分類できない
特定標的臓器・全身毒性(反復暴露)：	分類できない	分類できない
吸引性呼吸器有害性：	分類できない	分類できない
水生環境急性有害性：	分類できない	分類できない
水生環境慢性有害性：	分類できない	分類できない